

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスあのね		
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		令和7年3月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		令和7年3月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・定期的な職員、事業所内研修の開催。 (事業所内に限らず、法人内での参加・共有ができています)	・送迎研修(送迎時での気づき、ヒヤリハット場所の共有など)や看護師による治療剤投与時の実践的な研修の組み込みなど職員間で共有している。	・他事業所への見学(どのような活動内容を取り入れているかや、情報交換など)や資格取得に向けての取り組みの強化。 ・出前講座の企画。
2	・法人内事業所との交流、異世代・地域交流を通して社会体験の場を広げ、自立に向けた支援を行っている。	・幅広い年齢層の方々と交流し、子どもたちの持ち味や魅力を見せることができる。やり終えた達成感から自分への自信につながっていく。	・今後も、交流を継続して取り入れ、子どもたちの元気パワーを地域の方々に届けていく。
3	・関係機関との連携。	・送迎時だけでなく、何か気付いたことなどあれば電話で情報共有を行っている。	・会議だけでなく、それ以外でも気軽に連絡を取り合い、状況把握に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ペアレントトレーニングなどの研修の機会が持てていない。	・朝礼やミーティングなどを通して家庭の状況などは常に話題が出て共有しているがそこで終わってしまうことも多い。	・ペアレントトレーニング研修に申し込み、参加し、職員間で共有する。それ以外でも研修の機会が確保できるよう努め、学びを深めていく。
2	・保護者同士、きょうだい同士での交流の場が少ない。	・コロナ禍の時は交流自体も難しかったが少しずつ緩和してきて行事として取り入れることもできるようになってきた。まだ、交流までできていない方も中にはいる。	・顔合わせ、保護者同士でゆっくりお話ができる時間を設けていく。
3	・活動部屋の環境調整。	・子どもたちの体格も大きくなり、部屋が手狭に感じたり、感覚過敏が特性としてある子どもへの対応、配慮が十分できていない時もある。	・引き続き、パーティションなどを使用して集中できる環境を整える。特性に配慮した個別療育を継続していく。